

第112回

近畿救急医学研究会

日本救急医学会近畿地方会

プログラム・抄録集



救急医療の新たな試み

Go to next stage

2015. **7.11** [SAT]

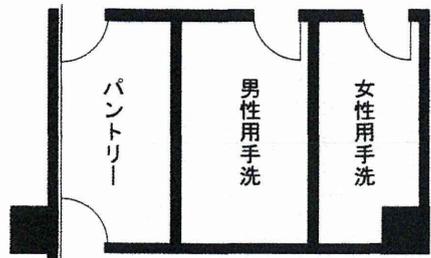
会 場 **大阪国際交流センター**

会 長 **秋元 寛** (大阪府三島救命救急センター所長)

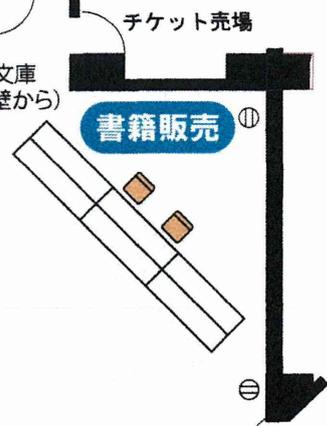
Go to next stage

第112回近畿救急医学研究会
 平成27年7月10日(金) 18:00~21:00
 (展示搬入19:30~21:00)
 平成27年7月11日(土) 8:00~17:00
 (~16:30展示撤収完了)

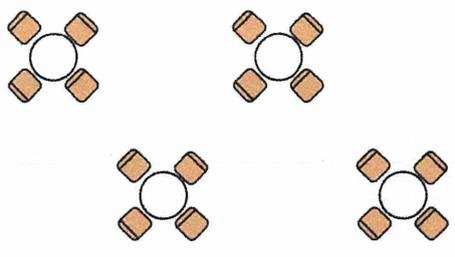
⊖ コンセント
 ⊕ テレビ接続口
 ⊙ 電話



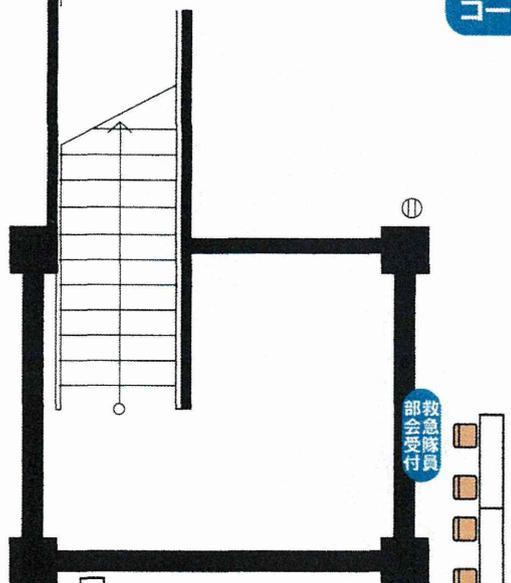
ドリンク
コーナー



神陵文庫
(500w壁から)



- | | |
|------------------|---------------------|
| フィジオ
★100w | ベクトンディッキンソン
★40w |
| 日本光電
★1500w | 旭化成
★1000w |
| 循環器病センター
★20w | レールダル
★500w |

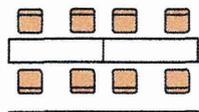


- | | |
|-----------------|-------------------|
| アボット
★150w | コーケン
★12w |
| アイエムアイ
★200w | アビス
★40w |
| 大研医器
★1500w | ラジオメーター
★1000w |
| フィリップス
★400w | シーメンス
★200w |

セミナー受付

総合受付

PC受付



ホワイトボード

ホワイトボード×2

大阪国際交流センター
International House, Osaka

アトリウム平面 (1/100)

35.80

16.60

2015年7月11日

第112回近畿救急医学研究会 ブース展示



第113回 近畿救急医学研究会 (日本救急医学会 近畿地方会)

【プログラム・抄録集】



救急医療の セレンディピティ^{はくくむ}を羽含む

誰にでもある思いがけないものを発見する能力。
予期せぬことが起こる救急医療の現場でこそ“セレンディピティ”が活かされる!

会 場●神戸国際会議場

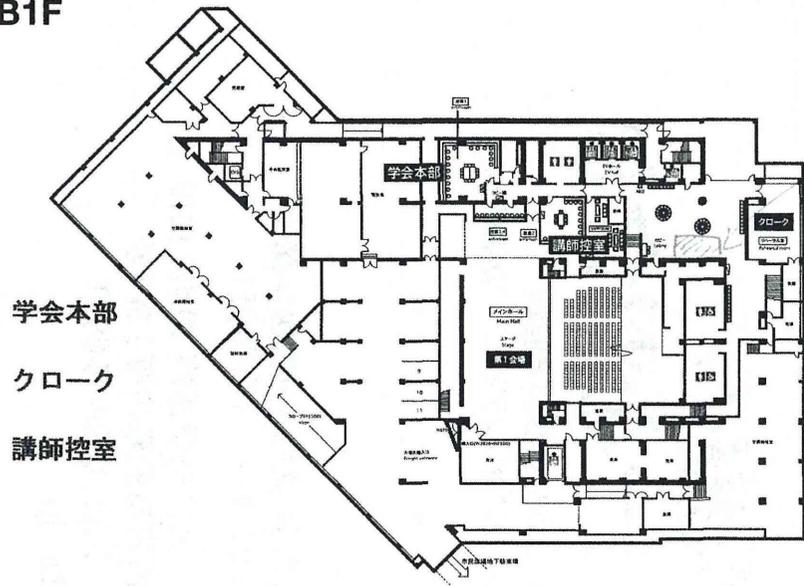
会 期●2016年3月12日(土)

会 長●小谷穰治(兵庫医科大学 救急・災害医学講座
救命救急センター 主任教授)

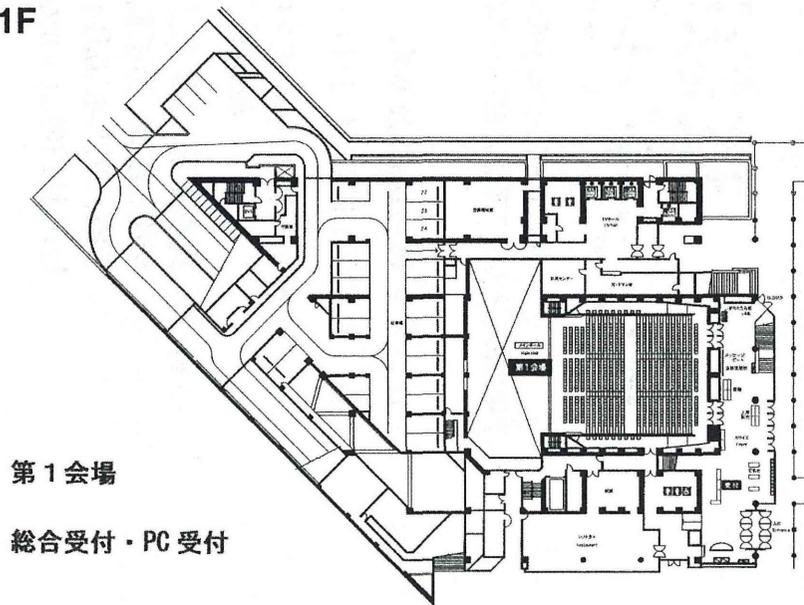
事務局●兵庫医科大学 救急・災害医学講座 担当/山田 勇
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL 0798-45-6514 FAX 0798-45-6813
kinkil13@hyo-med.ac.jp

会場案内図 B1F・1F

B1F

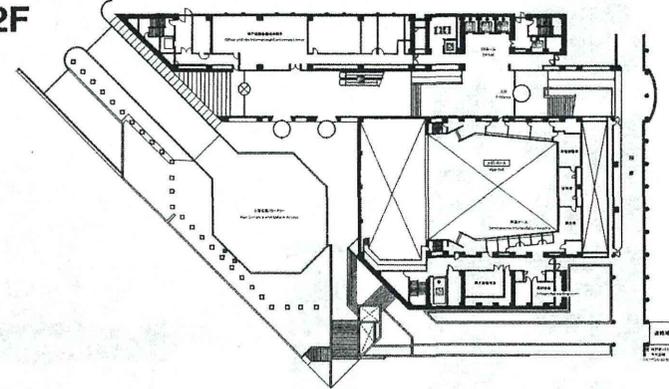


1F

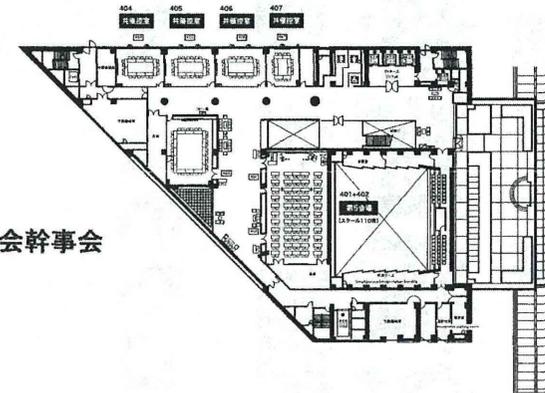


会場案内図 2F・4F・5F

2F



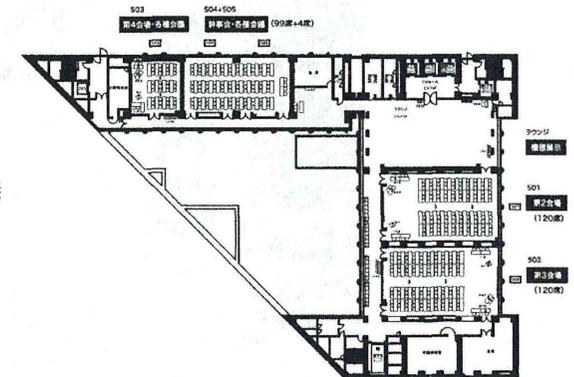
4F



第5会場

救急隊員部会幹事会

5F



展下 11112222 用意して

2016年3月12日

第113回近畿救急医学研究会 ブース展示



組織移植に関するアンケート

本アンケートは、組織移植に関する認知度を調査し、組織移植を推進するとともに、組織の公平な供給体制構築のための研究を行うため、厚生労働省科学研究補助金の交付（難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業（移植医療基盤整備研究分野）））を受けて実施するものです。

本アンケートで得られた情報は、本研究及び組織移植を実施するための体制構築の目的にのみ使用いたしません。データは国立循環器病研究センター組織保存バンクで管理を致します。

上記についてご了承の上、ご協力いただける場合には、次頁アンケートにお進みください。

アンケート実施者：

国立循環器病研究センター/西日本組織移植ネットワーク

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台 5-7-1

Tel：06-6836-3892

国立循環器病研究センター心臓外科部長 藤田 知之

Q1. 組織移植についてご存知ですか？

1. ある程度知っていて、提供に関わったことがある
2. ある程度知っているが、提供に関わったことはない
3. 聞いたことはある
4. 聞いたことがない

Q2. 本日、国立循環器病研究センター組織移植コーディネーターより「西日本における組織移植医療の現状と課題」という演題発表をさせていただきました。左記の演題についてお聞きになりましたか？

1. 演題発表を聞いた (→Q3. へ)
2. 演題発表を聞いていない (→Q4. へ)

Q3. (Q2. にて演題発表をお聞き下さった方にうかがいます) 演題をお聞きになって、組織移植に対する理解度はどうなりましたでしょうか？

1. 理解度は上がった
2. 理解度は変わらなかった
3. 理解度は下がった

Q4. 本日、国立循環器病研究センターはブースにてホモグラフトモデル等展示させて頂いております。左記のブースについてご覧になりましたか？

1. ブース展示を見た (→Q5. へ)
2. ブース展示を見ていない (→最後に、へ)

Q5. (Q4. にてブース展示をご覧下さった方にうかがいます) ブースをご覧になって、臓器・組織移植に対する理解度はどうなりましたでしょうか？

1. 理解度は上がった
2. 理解度は変わらなかった
3. 理解度は下がった

Q6. (Q4. にてブース展示をご覧下さった方にうかがいます) 特に良かったと思われる展示がございましたら、○をお付け下さい (複数回答可)

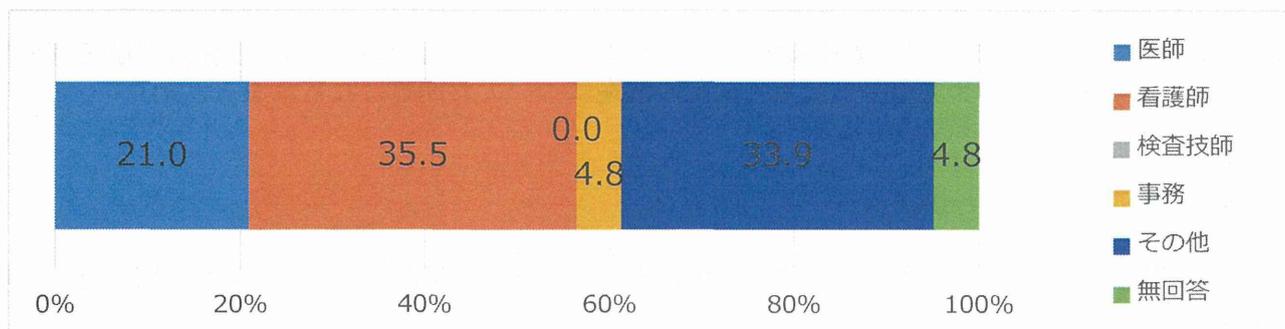
1. 組織移植に関するパネル
2. ホモグラフトの模型
3. ホモグラフト摘出手技の動画
4. 各都道府県から発行されているパンフレット
5. その他 ()

最後に、差支えなければ職種及び経験年数をお答えください

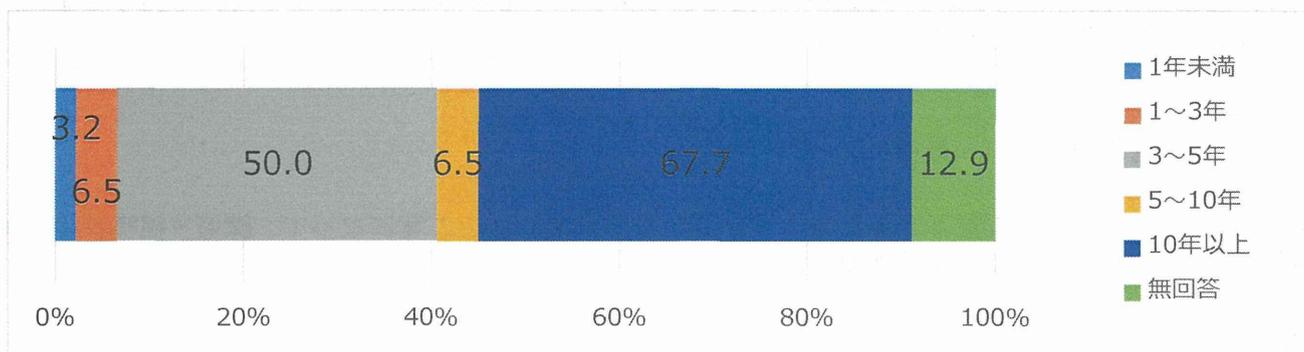
職種： 1. 医師 2. 看護師 3. 検査技師 4. 薬剤師 5. 事務 6. その他
経験年数： 1. 1年未満 2. 1～3年 3. 3～5年 4. 5～10年 5. 10年以上)

ご協力ありがとうございました。

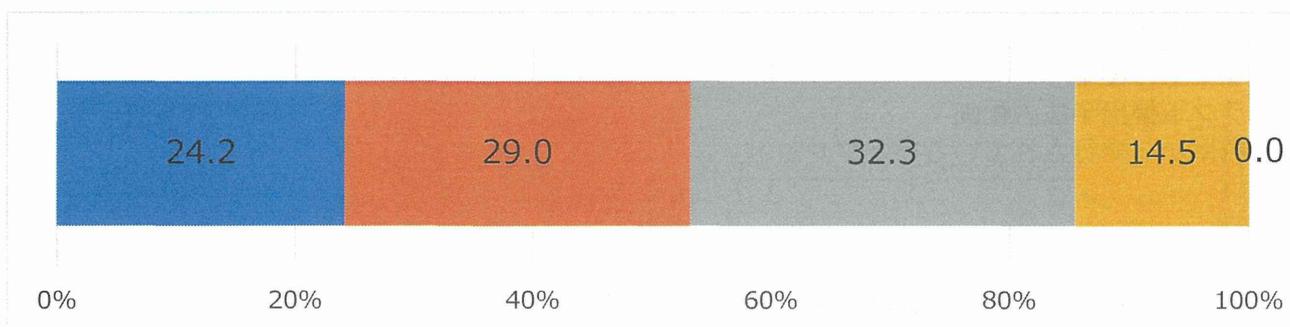
回答者属性（職種）



回答者属性（経験年数）

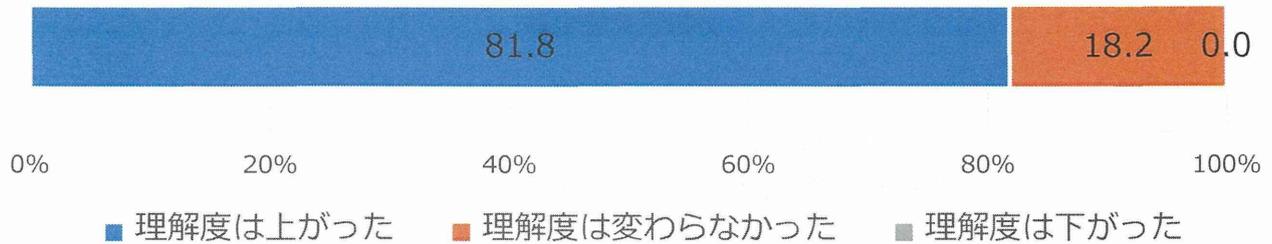


組織移植の認知度

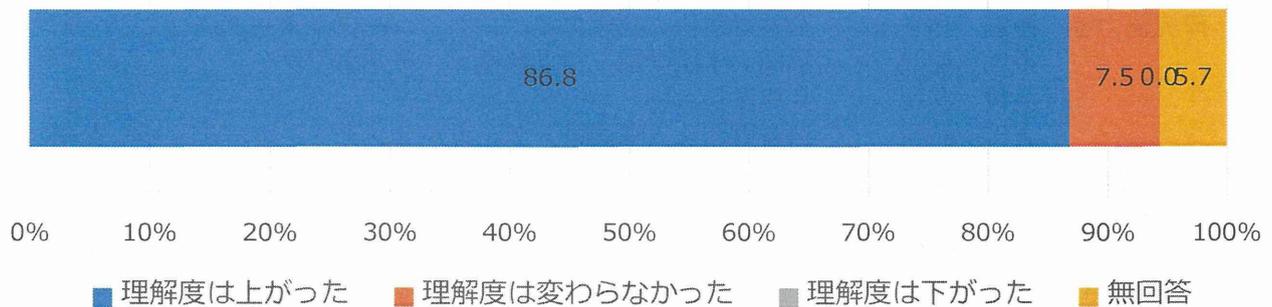


- ある程度知っていて、提供に関わったことがある
- ある程度知っているが、提供に関わったことはない
- 聞いたことはある
- 聞いたことがない
- 無回答

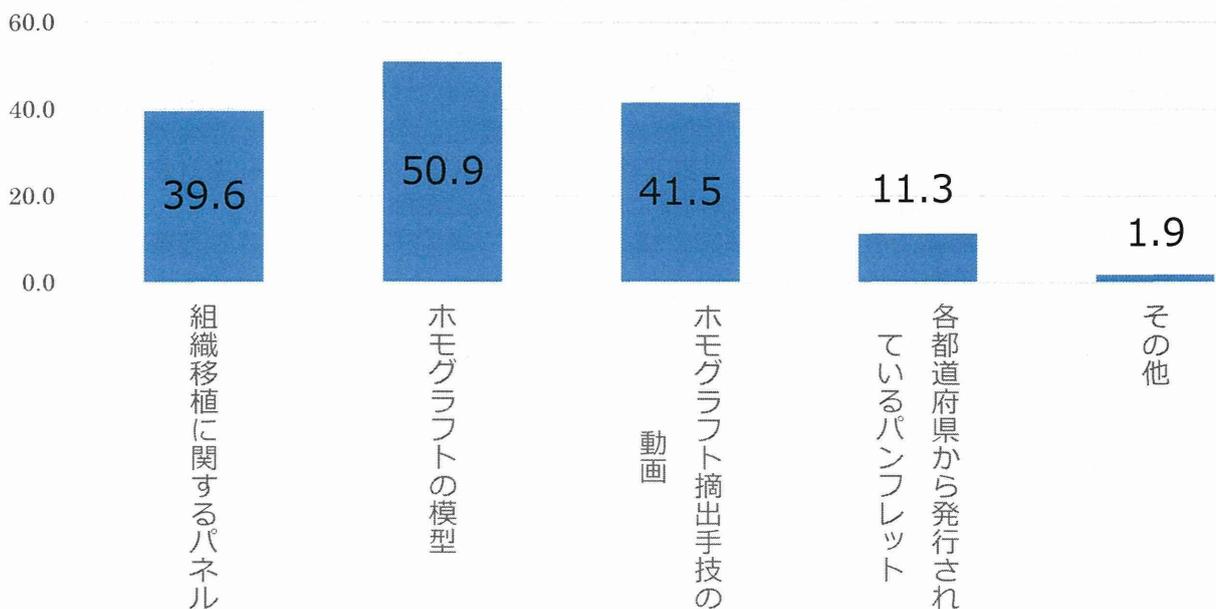
演題発表による認知度への影響



ブース出展による認知度への影響



啓発ツール別有用性



厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業 移植医療基盤整備研究分野）））
 分担研究報告書

「ドナー情報対応の効率化に向けた研究」
 「組織バンク遠隔地からの供給体制構築に向けた研究」

研究分担者	小林 順二郎	国立循環器病研究センター	副院長
	中谷 武嗣	国立循環器病研究センター	部門長
	福寫 教偉	国立循環器病研究センター	部長
	市川 肇	国立循環器病研究センター	部長
	湊谷 謙司	国立循環器病研究センター	部長
	秦 広樹	国立循環器病研究センター	医師
	小川 真由子	国立循環器病研究センター	組織移植コーディネーター
	安波 洋一	福岡大学医学部	教授
研究協力者	渡邊 和誉	公益財団法人兵庫アイバンク	コーディネーター
	金城 亜哉	福岡大学医学部	組織移植コーディネーター
	今村 友紀	兵庫医科大学	コーディネーター
	岩田 誠司	公益財団法人福岡県メディカルセンター	コーディネーター

研究要旨

現在、組織（心臓弁・血管・骨・臍島等）の摘出・保存は、その経費について当該組織バンクを有する施設が負担していることから、当該組織バンクを所属している施設の医師が実施している。心臓弁・血管（以下ホモグラフト）については、日本において院外へも対応しているのは、国立循環器病研究センター及び東京大学医学部附属病院のみであり、必然的に摘出対応地域を限定せざるを得ない状況にある。また、組織の提供に際しては、都道府県及び（公社）日本臓器移植ネットワーク（以下JOT）の臓器移植コーディネーター（以下Co.）と東・西日本組織移植ネットワークの組織移植Co.は連携して対応しているが、組織提供可能地域・施設が限定されている等の理由から地域差が生じている。

本研究では、ホモグラフトをモデル組織として、遠隔地での提供を可能とする体制の確立を目指した。各地に移植・摘出の拠点施設を設置する事を目的として西日本における主要な心臓血管外科及び消化器外科施設を対象とした説明会を実施した。その後拠点施設となるための連携を表明した施設を主に対象とした具体的なホモグラフト移植・摘出講習会を実施し、摘出医の増員を図った。併せて当該施設立地地域にて対応する府県の臓器移植Co.及び（公社）日本臓器移植ネットワーク臓器移植Co.、他組織の組織移植Co.を対象としたCo.研修会を実施し、具体的な連携体制構築に向けた検討を開始した。

今後の課題は、他組織での運用も踏まえた摘出マニュアルの作成、運用及び各地域における連携体制の確立である。

A. 研究目的

日本において、組織（心臓弁・血管・骨・臍島等）の摘出・保存は、その経費について当該組織バンクを有する施設が実施することから、当該組織バンク所属施設の医師が実施している。

心臓弁・血管（ホモグラフト）においては院外へも対応しているのは、国立循環器病研究センター及び東京大学医学部附属病院のみであり、必然的に対応地域を限定せざるを得ない。現在西日本における対応地域は国立循環器病研究センターを起点とした大阪府、兵庫県、奈良県の3府県のみ、

東日本においては東京大学医学部附属病院を起点とした関東甲信越(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県)のみである。

ホモグラフトを用いた外科治療は、平成27年度末まで先進医療の扱いであり、特に平成25年度末までは先進医療実施施設基準としては当該ホモグラフトを保存していた(=組織バンク所属)施設のみとされていた。しかし、平成26年度より、先進医療実施施設基準が緩和され、バンク所属施設以外の施設でも基準を満たせば先進医療として実施可能となった。また、平成28年度の診療報酬改定において、「凍結保存同種組織を用いた外科治療」が保険収載される事となった。これにより、組織バンクとして必要なホモグラフトの供給を確保する事、そのためのホモグラフトの確保はより必然となった。

国民の提供意思、移植意思の双方に広く応えるためには、対応地域の拡大は必須である。しかし、拡大した対応地域全てにおいて現行通り国立循環器病研究センター及び東京大学医学部附属病院の2施設のみで対応する事は人的要因等から困難である。今年度、国立循環器病研究センターを先行として、組織バンク所属施設外施設での実施に際して、移植を実施する施設が摘出についても担う体制の構築を目指した。また、提供に際しては、関係Co.間及びCo.と摘出医との連携が不可欠であり、これについても検討を重ねた。現在、対応地域において府県臓器移植Co.もしくは(公社)日本臓器移植ネットワークの臓器移植Co.が第一報を受信し、組織提供の可能性がある場合、原則として臓器移植Co.から組織移植Co.へ連絡していただく流れとなっている。しかし、組織移植Co.が増員される見込みは低く、遠隔地における体制については、別途体制を検討する必要がある。

昨年度、西日本組織移植ネットワーク活動地域で、県臓器移植Co.が日本組織移植学会認定Co.資格を有している兵庫県及び福岡県をモデル地域として、定期的・継続的な対面でのミーティングや帯同しての啓発活動等を実施した。これらの活動を通じ

て、いわゆる提供施設や、提供に際してのご家族の負担を軽減し得る可能性について検討し、臓器移植Co.と組織移植Co.間の連携を個人間の連携から組織間の連携へと深化、システム化することにより強固な連携体制の維持の可能性を探った。

本研究の目的は、上記の活動から示唆された連携を踏まえ、組織バンク所属施設地域外の地域におけるホモグラフト摘出・移植の拠点施設を確立し、摘出医の増員を図るとともに、実際の症例発生時における臓器移植Co.と組織移植Co.の連携体制を明確化し、遠隔地からの供給体制を可能とする事である。

B. 研究方法

(1) 東京大学医学部附属病院組織バンクとの連携

平成25年10月より実施している、月1回のCo.間による連携Web会議の実施を継続した。

また、先進医療A施設基準変更に伴う運用及び先進医療B申請にあたり、下記概要で両施設間連携会議を実施した。

①平成27年度第1回連携会議

日時：2015年8月28日 13時～14時
場所：シティプラザ大阪4階「凜の間」

②平成27年度第2回連携会議

日時：2016年3月15日 14時半～16時
場所：東京八重洲倶楽部

また、摘出・搬送方法等についても統一した運用を目指し、検討を重ねた。

(2) ホモグラフト移植・摘出拠点施設の確立

平成26年4月より「凍結保存同種組織を用いた外科治療」の先進医療実施施設基準が緩和された事を踏まえ、主に西日本地域におけるホモグラフト移植・摘出拠点施設を確立すべく、下記概要で「凍結保存同種組織を用いた外科治療」説明会を実施した。

日時：平成27年9月5日(土)14時～16時
場所：新大阪ホテル
東口研修ルーム801号

(3) 移植・摘出講習会の実施

上記(2)にて開催した「凍結保存同種組織を用いた外科治療」説明会后、国立循環器病研究センターとの連携を表明した施設を中心に、具体的な移植体制の確認及び摘出手技の習得のためのホモグラフト移植・摘出講習会を下記概要で実施した。

日時：平成28年2月6日(土) 13時～16時半
場所：国立循環器病研究センター

クラスター棟会議室/トレーニング室

内容：座学

「ホモグラフト移植実施手続き」

「ホモグラフト解凍手順」

「ホモグラフト移植術」

「組織摘出体制について」

実技研修

「豚心を用いたトリミング実習」

検討会

「連携体制構築のための検討会」

(4) 組織バンク施設主催Co. 研修会の実施

ホモグラフト摘出地域の拡大及び臍島提供時等における臓器移植Co.-組織移植Co.間連携体制強化を目的に、府県臓器移植Co.、JOT臓器移植Co.、他組織バンク組織移植Co.を対象に下記概要で組織バンク施設主催Co.研修会を実施した。また、i) ②国立循環器病研究センター主催第2回Co. 研修会においては、研修会案内と併せて連携体制構築に関するアンケートを実施した。

i) 国立循環器病研究センター
(ホモグラフトバンク)

①平成27年度第1回Co. 研修会

日時：平成27年8月18日 10時～16時半

場所：国立循環器病研究センター

クラスター棟 会議室A

②平成27年度第2回Co. 研修会

日時：平成28年2月5日 13時～17時

2月6日 10時～13時

場所：国立循環器病研究センター

クラスター棟 会議室A-C

ii) 京都大学医学部附属病院(臍島バンク)

①平成27年度第1回Co. 研修会

日時：平成27年9月24日 14時～17時半

場所：京都大学医学部附属病院

臓器移植医療部

また、上記研究会で抽出された課題の共有及び解決を目的として、下記概要で関連機関会議を実施した。

日時：平成28年3月10日 11時～13時

場所：(公社)日本臓器移植ネットワーク

医療本部

C. 研究結果

(1) 東京大学医学部附属病院組織バンクとの連携

先進医療実施時の請求額について、国立循環器病研究センターと東京大学医学部附属病院間に差異があったが、先進医療Bへの申請及び先進医療終了後の保険収載を視野に入れ、統一する事として両施設間でコンセンサスが得られ、これを受け国立循環器病研究センターから変更届を申請し、平成27年度より金額を統一した。

ドナーの医学的適応についても検討し、昨今の脳死下臓器提供時のホモグラフト提供症例の発生及び脳死下臓器提供時の臓器から組織への転換の可能性の発生から、高齢の臓器提供ドナー情報にも対応できる体制を整えるため、心臓弁・血管提供ドナー年齢について、60歳以下から70歳以下へ引き上げる事が妥当であるとして両施設間でコンセンサスが得られ、両施設内の倫理委員会に申請・承認された。日本組織移植学会における了解を経て、関係各所への周知を経て平成27年7月13日を以て両施設ドナー年齢を70歳以下として対応する事とした。

また、平成28年度の診療報酬改定により、「凍結保存同種組織を用いた外科治療」が保険収載された事に伴う、院外施設へのホモグラフトの供給実施体制についても両施設間で検討した。

(2) ホモグラフト移植・摘出拠点施設の確立

平成27年9月5日に実施した「凍結保存

同種組織を用いた外科治療」説明会には、延べ14施設より17名の医師等の参加を得た。

説明会では、凍結保存同種組織（ホモグラフト）先進医療実施施設基準、院外施設への供給体制、必要な手続き等について説明した。先進医療実施施設基準には、当該組織バンクを有する医療機関と連携体制がとれている必要がある旨明記されており、連携体制の一つとして、ホモグラフトの移植のみならず、摘出についても可能な限りの協力を説明会にて求めた。

上記説明会の概要、参加者及び資料（追加資料含む）は、別添①～⑤の通りである。

説明会后、国立循環器病研究センターとの連携を表明したのは8施設であり、内1施設は既に国立循環器病研究センターとの契約締結に至った。他施設においても契約に向け院内調整を進めているところである。

（3）移植・摘出講習会の実施

平成28年2月6日に実施した「ホモグラフト移植・摘出講習会」には、延べ8施設より17名の医師の参加を得た。また、直前まで実施していた Co. 研修会に参加していた Co. も参加可能とし、15名の Co. の参加を得た。

講習会では、凍結保存同種組織（ホモグラフト）移植実施体制、必要な手続き等について改めて説明すると共に、実際の移植実績等についても説明した。また、国立循環器病研究センターでは、標準手順書（以下 SOP）上、実際に摘出に赴く医師に対して、ホモグラフト摘出・移植についてのみの知識のみならず、組織移植そのものの体制及び他組織についての知識も求めている事から、組織移植全般に関する説明を行った。SOP に則り、同日中にテストを実施して84%以上の正答率であった者のみを受講者とした。

実技研修においては、豚心を用いてホモグラフトトリミングのデモンストレーション、実技研修を行った。

なお、上記講習会の概要、参加者及び資料資料については別添資料⑥～⑩の通りで

ある。

（4）組織バンク施設主催 Co. 研修会の実施

平成27年8月18日及び平成28年2月5・6日に実施した「国立循環器病研究センター主催 Co. 研修会」には、府県臓器移植 Co.、JOTCo.、他組織バンク組織移植 Co. よりそれぞれ5名及び19名の参加を得た。また、平成27年9月24日に実施した「京都大学主催 Co. 研修会」には、5名の参加を得た。

国立循環器病研究センター主催 Co. 研修会の案内と併せて実施した連携体制構築に関するアンケートには、送付した10名の府県臓器移植 Co. 全員より回答を得た。

研修会では、各組織バンク設備の見学、組織提供・移植に関わる法的背景、運営背景、ホモグラフト・豚島提供の医学的適応、移植についての座学と併せ、実際の施設使用許可依頼のためのロールプレイ、ご家族への IC のロールプレイ等の演習も実施した。

また、実際に現場にてご家族にホモグラフト提供の選択肢提示及び IC を実施するに際しての連携体制等について検討を行った。

なお、上記研修会の概要・資料・追加資料については別添資料⑪～⑲の通りである。

D. 考察

（1）東京大学医学部附属病院組織バンクとの連携

現在、日本においてホモグラフトバンク事業を実施しているのは、国立循環器病研究センター及び東京大学医学部附属病院のみである。平成28年度の診療報酬改定において当該「凍結保存同種組織を用いた外科治療」が保険収載され、より広く全国の患者、胸部外科医のニーズに公平に応える事が、両施設に課せられている。そのためにも、両施設間においてドナー適応、供給等について協議の上進めていく事が必須である。

（2）ホモグラフト移植・摘出拠点施設の確立

昨年度本研究にて実施した、胸部外科医師対象のアンケートにおいて、ホモグラフト使用経験有無では「使用したことはない」と回答した割合は61.5%と高く、その理由としては「手続きが煩雑そうであるため」(32.5%)、「使用のための手続き、連絡先が分からないため」

(26.0%)、「日本にホモグラフトのバンクがある事を知らなかったため」

(7.1%)という結果が示されていた。今年度、国立循環器病研究センターをモデルバンクとして、西日本地域における主要な心臓血管外科および消化器外科施設に対して、国立循環器病研究センターがホモグラフトバンクを有している事と併せ、連絡先、手続き等について周知出来た意義は大きい。また、対面での説明会を通じて今後帯同してよりいい連携体制構築を検討する基盤を設ける事が可能となった。

今後、各施設との連携を深化しつつ、供給体制を確立してより多くの患者の救命、QOLの向上に寄与する事が重要である。

(3) 移植・摘出講習会の実施

ホモグラフトの移植・摘出は日本において実績数はまだ少なく、実地で学ぶ機会は少ない現状にある。今回、国立循環器病研究センター主催でホモグラフト移植・摘出講習会を実施し、これを学ぶ機会を設けた意義は大きかったと考える。

今後は、これを国立循環器病研究センタープロジェクトとして位置づけ、継続実施可能な体制としていく事が重要である。

(4) 組織バンク施設主催Co. 研修会の実施

現在、組織移植について学ぶための研修会としては、日本組織移植学会主催Co. セミナーが年2回実施されているが、施設使用許可取得のためのロールプレイ、ご家族へのICのロールプレイ等、実地に則した内容とはなっていない。

今回、ホモグラフトバンクを有する国立循環器病研究センターをモデル及び隣島バ

ンクを有する京都大学が主催となって、より実地的なCo. 研修を実施した。実際の症例においては、臓器提供時に組織提供が成される事も多く、各府県の臓器移植Co. 及び(公社)日本臓器移植ネットワーク臓器移植Co.、他組織バンクCo.との連携は必須であり、今回の研修において多くの臓器移植Co.の参加を得る事が出来た意義は大きい。

但し、連携体制構築に関するアンケート調査の結果からも、研修会の実施に際しての各地域における理解及び経費面等での課題も浮き彫りとなった。り、今後の継続実施に向けた更なる検討が必要である。

E. 結論

昨年度、臓器提供件数は増加し、臓器提供に伴う組織提供件数も増加した。また、平成28年度の診療報酬改定において当該「凍結保存同種組織を用いた外科治療」が保険収載され、国民の提供・移植の双方の意思により広く応える事が喫緊の課題となった。

今年度、本研究にてホモグラフトをモデル組織として実施した、遠隔への供給体制の確立、また遠隔での提供のための体制整備はその課題への一つの回答となり得ると考える。

今後、既に国立循環器病研究センターで実施してきた移植・摘出医教育システムを発展させ、当院のみならず各拠点施設におけるホモグラフト移植・摘出医の教育・増員を図る。これと併せて各地域におけるCo.間の連携体制を確立し、これを運用、拡大していく。また、他組織(皮膚・骨・腓島)における運用についても検討していく事が必要である。

現在、ホモグラフトの他、皮膚・骨も保険収載され、より適正・公平な組織移植医療が実施されるために、各バンクが組織を十分確保し、確実に供給可能とする体制整備がより求められることとなった。バンク施設への還元、医療施設への拝領も視野に入れた体制整備や法的整備に向け、組織移植関係者全体で検討、提言していく。

F. 健康危険情報

該当なし

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

厚生労働科学研究費補助金交付事業の取
り組み・第 13 回日本組織移植学会・
2014・日本組織移植学会雑誌第 13 巻第 1
号 (P133)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

平成 27 年 7 月 21 日

〇〇病院 心臓血管外科
〇〇 〇〇 先生御侍史

先進医療 A『凍結保存同種組織を用いた外科治療』の説明会のお知らせ

謹啓、時下皆様方におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

さて、平成 26 年 4 月 1 日に我が国の先進医療の仕組みが見直され、『凍結保存同種組織を用いた外科治療』は暫定的に先進医療 A に認定され、施設基準も別紙 1 のように、緩和されました。それ以前は、日本組織移植学会の認定する組織バンクを有している、国立循環器病研究センターと東京大学しか当該先進医療の施設として認められていませんでした。しかし、今後は、組織バンクを有していない医療施設でも、凍結保存同種組織（輸入同種組織の経験、海外での経験を含める）を用いた外科治療を 5 症例以上経験する医師が常勤し、凍結保存同種組織（輸入同種組織の経験を含める）を用いた外科治療を 3 症例以上当該施設で経験していれば、本先進医療の認定施設になる事が出来るようになりました。

ただ、施設基準の一つに、当該バンクを有する保険医療機関と連携する体制が整備されていることがありますので、この度、西日本でこの度の先進医療実施要件を満たす可能性の高い医療施設をお呼びして、当該先進医療の説明会を行うことになりました。

以下の予定で、説明会を開催致しますので、是非、ご参加ください。

記

日時：平成 27 年 9 月 5 日（土） 14 時～16 時

場所：新大阪ホテル

議題：

1. 先進医療 A『凍結保存同種組織を用いた外科治療』の施設基準について
2. 我が国における組織移植・提供の現状について
3. 凍結保存同種組織の SHIPPING の運用について：協力施設とは
4. その他

以上

御多用と存じますが、同封の Fax 用紙にご記入の上、8 月 21 日までにご返信ください

国立循環器病研究センター 中谷武嗣
福嶋教偉

凍結保存同種組織を用いた外科治療の施設基準

1. イ 対象となる負傷、疾病又はそれらの症状
心臓弁又は血管を移植する手術を行うもの
2. ロ 施設基準
 - (1) 主として実施する医師に係る基準
 - [1] 専ら外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科に従事し、当該診療科について十年以上の経験を有すること。
 - [2] 外科専門医（一般社団法人日本外科学会が認定したものをいう。以下同じ。）、心臓血管外科専門医（特定非営利活動法人日本胸部外科学会、特定非営利活動法人日本血管外科学会又は特定非営利活動法人日本心臓血管外科学会が認定したものをいう。以下同じ。）、小児外科専門医（特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定したものをいう。以下同じ。）又は泌尿器科専門医（一般社団法人日本泌尿器科学会が認定したものをいう。以下同じ。）であること。
 - [3] 当該療養について五年以上の経験を有すること。
 - [4] 当該療養について、当該療養を主として実施する医師又は補助を行う医師として八例以上の症例を実施しており、そのうち当該療養を主として実施する医師として五例以上の症例を実施していること。
 - (2) 保険医療機関に係る基準
 - [1] 外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科及び麻酔科を標榜していること。
 - [2] 実施診療科において、常勤の医師が三名以上配置されていること。
 - [3] 臨床検査技師が配置されていること。
 - [4] 病床を二百床以上有していること。
 - [5] 当直体制が整備されていること。
 - [6] 緊急手術体制が整備されていること。
 - [7] 二十四時間院内検査を実施する体制が整備されていること。
 - [8] 医療機器保守管理体制が整備されていること。
 - [9] 当該療養の実施又は継続の適否について倫理的観点及び科学的観点から調査審議するため置かれた合議制の委員会（以下「倫理委員会」という。）が設置されており、必要な場合に事前に開催すること。
 - [10] 医療安全管理委員会が設置されていること。
 - [11] 日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していること又は当該バンクを有する保険医療機関から提供された組織を用いて当該療養を実施していること。
 - [12] 当該療養について三例以上の症例を実施していること。
 - [13] 地方厚生局長等が届出を受理した日の属する月の翌月（その日が月の初日であるときは、その日の属する月。以下「届出月」という。）から起算して一年が経過するまでの間又は届出後当該療養を十例実施するまでの間は、一月に一回、地方厚生局長等に対し当該療養の実施状況について報告すること。
 - [14] 日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していない場合は、当該バンクを有する保険医療機関と連携する体制が整備されていること。

150905 先進医療説明会参加施設・参加者一覧

施設名	科名	参加者
大阪大学医学部附属病院	心臓血管外科	戸田 宏一
		金谷 知潤
京都大学医学部附属病院	心臓血管外科	池田 義
京都府立医科大学附属病院	心臓血管外科	沼田 智
鹿児島大学病院	心臓血管・消化器外科学	山本 裕之
名古屋大学医学部附属病院	心臓外科	碓氷 章彦
		大島 英揮
奈良県立医科大学医学部医学科	胸部心臓血管外科学	阿部 毅寿
愛媛大学医学部附属病院	心臓血管・呼吸器外科	打田 俊司
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管外科	心臓血管外科	新井 禎彦
兵庫県立こども病院	心臓血管外科	大島 義博
		圓尾 文子
		松久 弘典
地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	心臓血管外科	小田 晋一郎
長崎大学病院	移植・消化器外科	曾山 明彦
愛媛大学大学院医学系研究科	肝胆膵・乳腺外科学	藤山 泰二
広島大学病院	消化器・移植外科	大平 真裕
東京大学医学部附属病院	組織バンク部	明石 優美 (Co.)
福岡大学医学部	再生・移植医学講座	金城 亜哉 (Co.)
国立循環器病研究センター	移植部門	中谷 武嗣
国立循環器病研究センター	移植医療部	福嶋 教偉
国立循環器病研究センター	移植部門	小川 真由子
国立循環器病研究センター	医事課	霜野 正幸

先進医療 A 『凍結保存同種組織を用いた外科治療』 説明会

日 時：平成 27 年 9 月 5 日（土） 14 時～16 時

場 所：ホテル新大阪 東口研修ルーム 801 号

参加施設：西日本における心臓血管外科・消化器外科関連施設 13 施設
東京大学医学部附属病院組織バンク（コーディネーター）
福岡大学（コーディネーター）

（別紙記載）

議題：

1. 先進医療 A 『凍結保存同種組織を用いた外科治療』 の施設基準について
2. 我が国における組織移植・提供の現状について
3. 凍結保存同種組織の SHIPPING の運用について：協力施設とは
4. その他